

つくば市寄附講座・

つくば市バースセンター開設にあたって

つくば市長 市原 健一



このたび、つくば市と筑波大学との連携による「寄附講座」及び「つくば市バースセンター」が運用開始の運びとなりました。

これからのまちづくりを進めるにあたり、誰もが安心して子どもを産み育てられる環境の整備は大きな課題です。近年、出産を取り巻く環境は全国的な医師不足や医療機関の減少等により大変厳しい状況に置かれております。そのような中、つくば市では「生み育てやすい環境の充実」を重要施策に掲げ、子育て世代にとりまして魅力あるまちづくりに取り組んでいるところです。

今回の取組は、全国初の試みとして県内で唯一の医育機関である筑波大学に寄附講座を開設し、将来の周産期医療を支える産科医及び助産師を育成しながら、つくば市バースセンターにおいて地域の分娩取扱医療機関の不足を効果的に解消していくものです。専用入院棟を有するバースセンター（12床）は平成29年頃に開設を予定していますが、その間、附属病院けやき棟（5階産科入院棟）内に6床のバースセンターを部分的に開設していただきます。

つくば市バースセンターは、将来にわたって市民の皆様の安全・安心な出産の場を安定的にご提供できるとともに、妊産婦の多様なニーズにも可能な限りお応えし、快適な出産をご提供できるものと考えております。

是非、皆様につくば市バースセンターをご利用いただきたいと思っております。



つくば市バースセンター

Tsukuba-city Birth Center

つくばで、
いいお産



筑波大学附属病院

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2丁目1番地1

Tel. 029-853-3900 (病院代表)

www.s.hosp.tsukuba.ac.jp



バースセンターでの出産

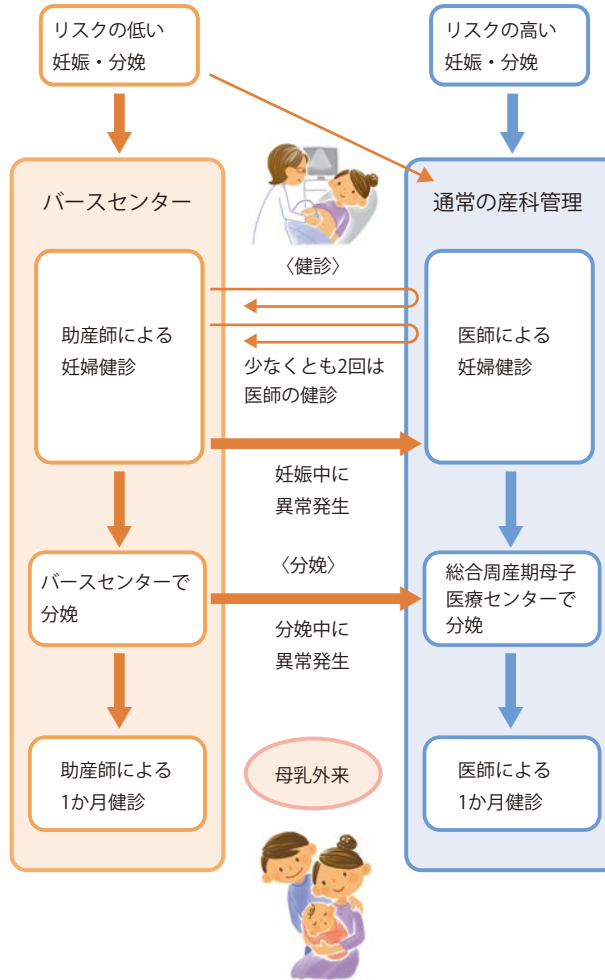


バースセンターとは



筑波大学附属病院では、つくば市との連携のもと、地域の妊産婦の皆さんが主体的に妊娠・出産、そして育児に臨めるように、助産師が中心となってサポートする院内助産システム「つくば市バースセンター」による出産の受け入れを始めました。合併症がなく、妊娠・出産に対するリスク(危険性)が低い妊産婦さんを対象に、助産師が妊娠期から産褥期に継続的に関わることで、満足を提供します。もちろん、リスクが低い方でもお産そのものの危険があるため、出産には必ず産科医師が立ち会うことで、安全を提供します。

この院内助産システムについて、詳しくは医師・助産師にお尋ねください。



安心・安全と快適性を備えた施設

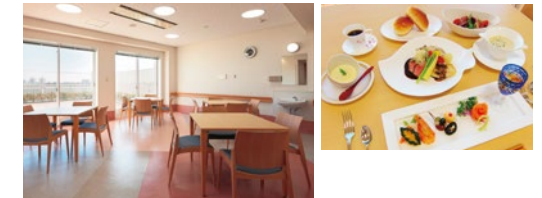
病室

病室は、個室、個室的多床室(4床室)、4床室があります。個室には、各室トイレとシャワーを完備しており、4床室も部屋ごとに専用のトイレが設置されています。プライバシーに配慮した空間となっています。



デイルーム

病室と同フロアにあるデイルームは、妊婦さん同士の交流の場となっています。出産後はねぎらい膳を提供いたします。



院内に併設された

総合周産期母子医療センター

NICU (新生児集中治療室)

GCU (新生児回復治療室)

新生児専任の小児科医、小児外科医と看護師がチームを組み、小さく生まれたり、手術が必要あるいは先天的な病気を持つ赤ちゃんたちを24時間体制で治療します。

MFICU (母体胎児集中治療室)

ハイリスク母体・胎児に対応できるよう最新の医療機器を備え、24時間質の高い医療を提供できる環境を備えています。

